

＼かごしまの地域を元気に！／
共生協働の地域社会づくり

川内川流域連携ネットワーク

川がつなぐ環境と人づくり 広がる地域づくりの輪



水生生物調査に子どもたちは夢中

「川内川や自分たちの街が大好き。そんな仲間が集まって、地元での川遊び教室や環境保全活動などを楽しみながら取り組んでいます」と代表の中村周二さん。「子どもたちは、水や自然に触れると目を輝かせて喜ぶからね」と話す表情はにこやかです。

九州第2位の長さを誇る川内川。「川内川流域連携ネットワーク」は、流域の3市2町で活動するNPO法人や、まちづくり団体などの17団体による連携組織です。それぞれの団体は、全長137kmの川内川流域で子どもたちの水生生物調査や川遊び、川で楽しく安全に遊ぶための知識と技術を身につけた指導者の育成、竹林や棚田の保全活動、ドラゴンボート大会などの開催といった取り組みを行っています。「各団体が、それぞれ自分たちの目指す活動を行い、必要に応じてお互いで助け合うというのが私たちの連携の形です。そのため情報交換や交流会を定期的に行っています」と事務局の上野豊さん。

ネットワークでは、流域にある4団体が事務局となり、情報

提供や活動アドバイスなどを行います。それぞれの団体のイベントにスタッフを派遣するなど、ネットワーク内で支援助しあう仕組みを構築しています。

このような自立・持続を主眼に置いたネットワークの輪は大きく広がり、国土交通省や流域自治体、県内外の大学、河川の専門家、九州各地の河川ネットワークなど、さまざまな団体や人をつないでいます。

このネットワークが強みを発揮したのが、平成18年の川内川流域豪雨災害です。ネットワークを活用して、流域のどの地域で何人のボランティアが必要か情報を収集し、ホームページへの掲載や直接の呼びかけを行ったところ、約140人も



川内川流域豪雨災害で復旧活動に汗を流すボランティアの皆さん

の復旧支援ボランティアが駆けつけました。

「災害は歓迎するものではないが、九州の川仲間が助けてくれたのは嬉しいね」と中村さん。上野さんは、「日ごろの活動が多く、多くの災害ボランティアを受け入れる力を培っていた」と感じたそうです。この災害を契機に、災害発生時の支援ネットワークが作られています。

災害が起きた7月23日は「川内川の日」とされ、毎年、流域の一斉清掃が行われています。去年の参加者は約900人という精神が地域にも根ざしつつあります。

「一人ひとりの力は微々たるもの。上流から中流、下流の



「川内川の日」流域一斉清掃には、自分たちの地域を大切にしようとする皆さんの参加が大切です

代表者からひとこと

中村さん:「川仲間と楽しく協力しあって、川内川流域のよりよい環境づくり、人づくり、地域づくりにつなげていきたいです」

上野さん:「事務局は大変な面もありますが、活動の輪が広がっていく楽しさを感じながら頑張っています」



川内川流域連携ネットワーク代表の中村周二さん(左)と事務局の上野豊さん(右)

人々が一緒になって取り組んでこそ、流れる水はきれいになる」と中村さん。これからも連携・協力の仕組みづくりを進めていくと意気込んでいます。

今年の10月には、「RAC(※)川に学ぶ体験活動全国大会inかごしま」が川内川で開催される予定で、さらに川仲間の輪が広がりそうです。

共生・協働の地域社会づくりやNPO法人に関するお問い合わせ先

- 共生・協働推進課(県庁9階) TEL.099(286)2241
 - 共生・協働センター(かごしま県民交流センター内) TEL.099(221)6613
- 関連情報は、県ホームページの「共生・協働(NPO・ボランティア)」にも掲載しています。

※RACは、「NPO法人 川に学ぶ体験活動協議会」の通称です。